

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|------------|--|---------|-------|
| ビジュアルコミュニケーション | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 岡本 圭祐 |
| 授業の概要 | | | | |
| <p>情報伝達において重要な素材の「形」と「文字」について学ぶ</p> <p>1. 視覚伝達デザインについて</p> <p>2. 形について</p> <p>3. 文字について</p> <p>4. JAGD国際学生アワード</p> | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 情報伝達における形の役割を認識し、文字と形による情報伝達を行える。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | ディレクター、デザイナーとして21年の経験あり。 | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 予習と復習を行う。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~2 | デザインとは | <ul style="list-style-type: none"> ●VCDについて 情報伝達 ●絵しりとり 【課題】丸い形の写真を撮る。丸い物を正円になるよう撮る。 | | |
| 3~4 | グラフィックについて | <ul style="list-style-type: none"> ●イラストレーターの使い方を学ぶ 写真の転送方法 フォトショップでの写真の加工 写真の選定を行い、グラフィックで表現を行う。 | | |
| 5~6 | プレゼンテーション | リサーチとプレゼンテーション | | |
| 7~8 | 形について | <ul style="list-style-type: none"> ●版下データの作成 印刷の工程 トリムマークの意味 トリムマークを付けて印刷をし直す。次回の授業までに行っておくこと ●四角い形 フォトショップでの写真の加工 写真の選定を行い、グラフィックで表現を行う。 | | |
| 9~10 | 形について | <ul style="list-style-type: none"> ●抽象化と相対化 ピクトグラムとは 象(本質) 抽(抜き取る) ・対象を観察する力・情報を整理する・情報を再構築する・成果物として表現する ピクトグラムとは オリンピックピクトグラム スキポール空港のサインシステム Aiでトレースを行う パスファインダを使用し、形を作成する 【課題】動物の抽象化動物園のサインを作成する。ラフスケッチとAi | | |
| 11~12 | 形について | <ul style="list-style-type: none"> ●【プレゼンテーション】 模様の抽出と文字についてプレゼンテーションを行う ●【プレゼンテーション】 動物の抽象化動物園のサインのプレゼンテーションを行う AIでのパスのトレース練習 【課題】身の回りの模様になりそうな写真を撮影し、形を導き出し、模様を作成する。 | | |
| 13~14 | 文字について | <ul style="list-style-type: none"> ●【プレゼンテーション】 模様の抽出と文字についてプレゼンテーションを行う ●モリサワフォントについて、MAGIにインストールするフォント紹介 書体について | | |
| 15~16 | 文字について | <ul style="list-style-type: none"> ●文字のカーニング https://type.method.ac/ 欧文書体について 欧文書体の種類/使い方とイメージと機能/ファミリー 欧文書体の区分け ローマン サインセリフ | | |

| | | | | |
|--------|----------|---------|-------|-----|
| 17～28 | ポスターデザイン | JAGDA | | |
| 29～30 | 期末試験 | 期末テスト | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| | | 出席率 | 20.0% | |
| | | 課題・レポート | 80.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|--|---|---------|-------|
| 色彩概論 | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/前期 | 演習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 4単位(60時間) | 必須 | 石川 愛奈 |
| 授業の概要 | | | | |
| デザインにおいて、色彩に関する知識や色を扱う技術は必要不可欠である。この授業ではカラーコーディネーターやデザイナーにとって必要となる色彩感覚を様々なワークを通じて養い、作品制作に活かすことを目的としている。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 色彩感覚を養い、色の扱いに慣れ親しむ。 2. イメージに沿った色の選定を適切に行えるようになる。 3. 身の回りの配色について興味関心を持つ。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | 尾道市立大学美術学科卒業後、イラストレーターおよび就労支援施設での絵画講師として活動中。 | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 色彩検定3級の取得ができるように学習をすること。 過去問を解いたり、身の回りに溢れる色について観察する。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | イントロダクション | デザインにおける色彩の役割と基本的な色の見方(色の3属性)について学ぶ。 色彩検定のサンプル問題を解く。 | | |
| 2 | 混色トレーニング | 赤・黄・青の三色の絵具の混色で色相環を作成する。 純色・白・黒の絵具の混色し、色の濃淡を表現する。 | | |
| 3 | 光による色が見える仕組み | 光の波長や、眼球の構造について | | |
| 4 | PCCSと色相のイメージ | 表色体系のひとつであるPCCSについて学ぶ。 ・色相の表記方法と色相環 ・トーン概念・表記方法 ・カラーカードでサンプル作成 各色相から連想される物やイメージについて学ぶ。 | | |
| 5 | 前回までの復習 | 色彩検定の過去問を解き、検定の雰囲気や問題に触れる。 解答後、答え合わせと解説を行う。 | | |
| 6-7 | 配色トレーニング | PCCSの各トーンから連想されるイメージについて学ぶ。 【ワーク】「若々しい」「さわやか」といったイメージを、5色の組み合わせで表現する。カラーカードを切り出し、用紙に貼り付ける。 | | |
| 8 | 色名について | 系統色名と慣用色名について学ぶ | | |
| 9-10 | 配色効果 | 配色により起こる現象について学ぶ 【ワーク】実際にカラーカードを組み合わせ、色を隣接させて起こる現象を目で見て体験する。 | | |
| 11 | 色彩心理について | 色を与える印象や心理的効果について学ぶ それぞれの色が持つポジティブな面・ネガティブな面について学習し、PCCSの理解を深める。 | | |
| 12-13 | 色彩調和について | デザインごとに相応しい色を選択できるよう、相性のいい色の組み合わせ方について学ぶ 「ジャッドの色彩調和論」について解説を行う 【ワーク】絵の具を混ぜ合わせて色を作り、相性のいい色を作ってアートを完成させる。 | | |

| | | | | |
|---|------------|--|------------|-----|
| 14 | インテリアについて | インテリアにおける配色について学ぶ 家具・壁の面積や用途による配色を考える 【ワーク】Photoshopまたはその他のイラスト制作ソフトを使用して、お題のイメージに合った部屋の配色を行う。 | | |
| 15 | ファッションについて | ファッションにおけるコーディネートやアパレル業界の在り方について学ぶ。 ファッションに関する色彩知識を身につけ、応用できるようになる。 【ワーク】色鉛筆または絵の具を使用し、「フェミニン」「トラディショナル」といったテーマに基づいたファッションのスケッチを描き、着色する。 | | |
| 16-17 | 色彩検定過去問 | 色彩検定の過去問を解き、自己採点を行う。 点数を集計し、苦手な部分を復習する。 | | |
| 18 | 苦手箇所補填講義 | テストの結果からクラス全体の苦手カテゴリについて講義を行う | | |
| 19-21 | 平面構成（4時間） | キーワードから連想し、イメージを平面構成する 完成後講評を行う | | |
| 22-24 | 平面構成（4時間） | モチーフを自由に組み合わせて平面構成を行う 完成後講評を行う | | |
| 25-30 | デザインにおける配色 | デザインにおいて重要な「何を伝えるか」を実際に作成する。 【ワーク】既存の製品について、「便利」「おいしい」「危険」などの明確なメッセージが分かる広告を作成する | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| ①配布プリント ②色彩検定公式テキスト3級編 ③色彩検定 過去問題集 2023年度2・3級 | | 出席率 課題・試験結果 | 20% 80% | 無し |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|--------------------|---|------------|--|
| ドローイング | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 鶏内 真紀 |
| 授業の概要 | | | | |
| 頭の中で考えたイメージを描くことは創作活動の基本であり、ツールとしてのデジタル表現が一般化した今日こそ重要視される。対象の形、色、素材感、陰影を構造的かつ視覚的に捉え、鉛筆によるデッサン表現を行なうことで「観る力」と「描く力」をスキルアップさせる。使用する用具の特性を理解し、より客観的な対象の把握と表現をねらいとする。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. モノトーンモチーフを題材に、形体と質感を客観的に描写する。 2. パース、モチーフ比率をふまえた描き方を理解する。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | デッサン塾での指導(2001~2004年) イラスト制作販売の経験(2003~2020年) 講師歴(2004~) | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 身の回りのものを様々な角度から観察し、それを見ながらスケッチしてみる。写真に撮ってそれを見ながら模写すると見え方の変化が理解しやすい。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~ 2 | はじめに | デッサンとは? なぜ必要なのか? 道具の説明と準備 | | |
| 3 | グレースケールとハッチング | 手を動かす 線の引き方、調子の入れ方 グレースケールの制作 | | |
| 4~ 6 | 観察力を身に付ける | モノクロコピー模写(球体) 講評と手直し | | |
| 7~ 12 | 卓上デッサン① 比率の取り方 | 円柱モチーフのデッサン 講評と手直し | | |
| 13~ 18 | 卓上デッサン② パースを捉える | 箱モチーフのデッサン 講評と手直し | | |
| 19~ 24 | 卓上デッサン③ 客観的描写 | 任意のモチーフのデッサン 講評と手直し | | |
| 25~ 30 | 卓上デッサン④ 客観的描写 | 任意のモチーフのデッサン | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| なし | | 出席率 課題 | 20% 80% | モチーフの形、色、素材感、陰影を構造的かつ視覚的に捉えているか 対象への観察力と空間を感じさせる平面構造が表現されているかを主に評価する。 |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---|---------------------|--|--|
| DTP基礎 | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 45回 | 3単位(90時間) | 必須 | 長島 祐未 |
| 授業の概要 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・DTP(デスクトップパブリッシング)について見聞を広げ、基礎知識を学ぶ ・デザインワークにおいて必要となるソフト「Adobe Photoshop/ Illustrator」の基本操作を学ぶ ・卓上出版の仕組みについて学び、正しい情報の整理を行えることを目的とし展開する | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・興味対象とする世界を広げ、デザインの魅力について知る ・Adobe Photoshop/Illustratorを使用しデザインを形にする技術を身につける ・クライアント・ターゲットユーザーの分析が行えるようになる ・DTPの基本ルールを理解し、印刷入稿可能なDTPデータを作ることができる | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | DTPオペレーター、デザイナーの経験有 | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン(Mac)の操作に慣れること ・日々目にするデザインを資料として収集・分析を行い、各自ファイル管理を行う | | | | |
| 回 | テーマ | | 内容 | |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・DTP(=パソコン上で印刷物のデータを制作すること)とはどんな仕事? ・「伝えたい人」に「伝わる」デザインを作るには?(クライアントやターゲットを意識してデザインしよう) | | <ul style="list-style-type: none"> ・DTPの仕事について、商業デザインに求められるものについて学ぶ。 ・デザインの媒体について知り、各媒体の目的や特徴について学ぶ。 ・印刷物が出来るしくみとDTPの基本ルールについて学ぶ。(自分が実際にデザインして印刷され商品となったものを学生に見せてイメージを膨らませてもらう) | |
| 2-17 | <ul style="list-style-type: none"> ・デザインをはじめる前に必要なことを知ろう | | <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン制作を行うためのアプリケーション「Adobe Illustrator」「Adobe Photoshop」の使用例と活用法を知る。両アプリケーションの起動、ファイルの開き方、新規ファイルの作成、環境設定、保存の仕方、作業エリア、画面表示に関するツールについて学び、アプリケーションを使用したデザイン制作を学ぶ。 ・レイアウトの基本ルール、写真と画像の扱い方、配色、文字&文章デザイン、インフォグラフィックについて学ぶ。 | |
| 18-28 | <ul style="list-style-type: none"> ・デザインをトレースしてみよう | | <ul style="list-style-type: none"> ・Illustrator、Photoshopを利用してデザインをトレースし、デザインの「理由」や「意図」を理解する。 | |
| 29-45 | <ul style="list-style-type: none"> ・実際にデザインを作ってみよう | | <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んだことを活かして印刷物を制作し、最後にプレゼンテーションを行う | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆自作ワークショップ課題 ◆教科書 ①なるほどデザイン(発行元:エムディエヌコーポレーション) ②Illustratorよくばり入門(発行元:株式会社インプレス) ③Photoshopよくばり入門(発行元:株式会社インプレス) ◆参考および引用図書 ①「伝わるデザインの教科書(武田英志 著)」 ②「やっばいはいけないデザイン(平本久美子 著)」 ③「DTP&印刷スーパーしくみ事典2021(発行元):株式会社ポーンデジタル」 | | 出席率 課題 | 20.0% 80.0% | 各自、各課題に合わせた参考資料を収集し参考資料のファイリングを行う。 スケジュール管理、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---|---|------------|-------|
| ベーシックデザインI | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 鶏内 真紀 |
| 授業の概要 | | | | |
| 視覚表現の知識理解を深め、イメージ伝達に必要な表現を身につける。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 画面とオブジェクトの関係性(地と図)について理解を深める。 平面に立体的表現(奥行き)を感じさせるイラストが描ける。 イメージに合ったテイストで人物が描ける。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | デッサン塾での指導(2001~2004年) イラスト制作販売の経験(2003~2020年) 講師歴(2004~) | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| モノの見え方を意識して風景や写真をみる。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | アトリエの使い方と画材について | 1. 使用画材の確認と氏名記入 2. アトリエ教室使用についての注意点 3. 共有画材の確認 4. 授業で使用する指定用紙の作成 | | |
| 2 | ベーシックデザインとは 作画テスト | ・ベーシックデザインについての概要説明 ・評価基準について 基本的なワードや作画能力についての現時点での実力チェック | | |
| 3~4 | 視覚心理(揃える) 画面と文字の関係 | 分解されたスペルの文字詰め | | |
| 5~6 | 視覚心理(揃える) 仮想グリッド 画面外への広がりを演出する | 実際にある印刷物から仮想グリッドを探す 仮想グリッドを設定しオブジェクトを配置する 断ち切りオブジェクト使用時の視覚心理について | | |
| 7~8 | イラストレーションの種類と役割 | ・さまざまな技法・スタイルで描かれたイラストの紹介と役割の説明 ・平面に立体を描く技法の習得 技法①重ね合わせ 技法②サイズとスペースの変化 技法③空気遠近法 | | |
| 9~12 | 平面に奥行きを表現する口 | 技法④線遠近法(線の収束) ・1点透視図法 ・2点透視図法(立方体を15個作画) | | |
| 13~14 | 人物の描き分け | 1. 年齢の描き分け 2. 性別の描き分け 3. プロポーション 4. 正面 斜め45° 横 後ろ | | |
| 15~30 | イラスト作品制作 | 指定されたテーマでイラストレーションを描く 手描きの線画をPCへ取り込む方法について IllustratorやPhotoshopでの彩色技術を身につける | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| | | 出席率 課題 | 20% 80% | なし |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|--|--|-------------------------|------|
| Webデザイン基礎 I | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数 (時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 1単位 (30時間) | 必須 | 上野リサ |
| 授業の概要 | | | | |
| WEBマーケティングを基準とし、クラウド概念、WEBにおける基本知識 (HTML含む) を理解する。実習を通してWEBデザイン基礎力を定着させ、さらなるデザイン力アップを目指す。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| WEBマーケティングの基礎と仕組みを理解し分析能力を高める。自身が構築したマーケティングデータに基づいてバナー制作の基礎を実践する。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | 実務経験：30年 (グラフィックデザイン、イラストレーター、WEBデザイン、M&A、EC、WEBマーケティング実務あり) <u>詳細はURL先でご確認くださいませ。</u> https://docs.google.com/document/d/1gaJsQi-uKngLc21eiaVzJu16Qdm01eGnYv0pivrth64/edit?usp=sharing | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| フォトショップ基本操作 (レイヤー概念) タイピング能力 (標準レベル) 英語能力 (中学レベル) | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~2 | WEBマーケティングの基礎講座 | WEBデザイン・WEBマーケティングとは WEBマーケティングデータ・デザイン制作する方法と説明 講義・応用 | | |
| 3 | ビジネスリテラシーの基礎 | コンバージョン設定、SWOT分析基礎、5W2H、人物金情報 | | |
| 4 | ミッション構築 課題解決法について | ミッションコーン設定 課題解決法、抽出とテクニック法について | | |
| 5 | WEB広告とその種類 ECサイトとWEBサイト違いについて | WEB広告が持つ特徴と効果について。活用法とテクニックについて学ぶ。 ECサイトとWEBサイト、コンバージョンの違いに着いて学ぶ。 | | |
| 6 | WEB集客活用法 | WEB集客とは、SNS運用とその役割について学ぶ。 | | |
| 7 | GoogleAnalytics、GoogleConsole | GoogleAnalyticsとConsoleシステム紹介とその活用法。 | | |
| 8 | ターゲット設定について | エンドユーザー設定と視点の切り替えについて。 | | |
| 9 | 可視化手法について | サードアイズテクニック、マインドマップを用いた応用と実践 | | |
| 10 | バナー制作 ① | 制作したバナー制作。 | | |
| 11~15 | バナー制作修正と評価 ② | 制作したバナー制作の修正と評価。 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| | | 出席率 授業態度 課題 | 20.0% 10.0% 70.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--------------------------------------|------------------------|---|------------|-------|
| マテリアル | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 鶏内 真紀 |
| 授業の概要 | | | | |
| アクリル絵の具の特性を理解し、混色や配色練習を行う | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 混色を行い、求める色を作成できる 2. 様々な技法を習得する | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | デッサン塾での指導(2001~2004年) イラスト制作販売の経験(2003~2020年) 講師歴(2004~) | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 絵具を2色混ぜたときにおこる色の変化(混色)をよく知っておくこと。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~2 | 授業概要 アクリル絵の具を使ってみよう | 概要説明 ・ 授業で使用する指定用紙の作成 ・ 配色と塗りのコツ | | |
| 3~6 | 色の再現 | 配色カードから任意で選出した2色をアクリル絵の具の混色により再現する | | |
| 7~14 | 透明視 | 不透明色の組み合わせによる透明の演出 | | |
| 15~22 | 技法各種1 | 有名絵画の一部分をアクリル絵の具で再現する | | |
| 23~30 | 技法各種2 | 様々な技法を体験し、テーマに合わせたイメージ表現を行う 「ふわふわ」+軽い 「がさがさ」+重い | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| | | 出席率 課題 | 20% 80% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|--------------------------|---|-------------------------|-------|
| P C 実習 | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/前期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 畑本 佳恵 |
| 授業の概要 | | | | |
| この授業は、職業人として不可欠となっている、コンピュータ操作の基本を身に付けることを目的とした科目です。表計算ソフトウェアの活用技術を習得していることは、実社会でのご有無を行う上で有益です。この実習では、企業において一般的に利用される表計算ソフトウェアである、Microsoft Office Excelについて、データ入力、関数の利用、グラフ作成、データベース機能の利用など、具体的な操作法を学習します。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| Excelの操作及び、具体的な問題の解決など、目標を達成するための手段、道具として「Excelを使う」ということを実践的に学び、より効率的にコンピュータを活用できることを目標とします。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | 医療系、物流関係の企業にて、約7年間の事務処理経験あり。 その後、現在まで社会人教育や専門学校、大学での情報処理の授業を担当する。 | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 毎日10分間のタイピングを欠かさず行ってください。タイピングが上手になると操作技術も向上します。 | | | | |
| 日時 | テーマ | 内 容 | | |
| 1 | オリエンテーション Excelの基本操作1 | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンセッティング ・この授業について(評価方法等) ・データの入力とセルを使った計算 | | |
| 2 | Excelの基本操作2 | <ul style="list-style-type: none"> ・オートサムを使った関数の計算 ・書式設定 | | |
| 3 | 書式設定とデータ管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・セルやセル範囲の書式設定 ・名前付き範囲の定義 ・ブック内の移動 | | |
| 4 | データを視覚的にまとめる | <ul style="list-style-type: none"> ・条件付き書式 ・スパークライン | | |
| 5 | データベース機能 | <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルを作成し書式設定する ・テーブルに名前を付ける ・テーブルを変更する | | |
| 6 | 数式や関数を使用した計算 I | <ul style="list-style-type: none"> ・参照を使った計算 ・関数を使った計算 | | |
| 7 | 数式や関数を使用した計算 II | <ul style="list-style-type: none"> ・関数を使った計算 | | |
| 8 | グラフの管理 I | <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの作成と編集 | | |
| 9 | グラフの管理 II | <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの書式設定 | | |
| 10 | ワークシートとブックの管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・データのインポート ・オプションと表示のカスタマイズ ・保存と印刷 | | |
| 11 | MOS試験対策 I | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回模擬試験と解説 | | |
| 12 | MOS試験対策 II | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回模擬試験と解説 | | |
| 13 | MOS試験対策 III | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回模擬試験と解説 | | |
| 14 | MOS試験対策 IV | <ul style="list-style-type: none"> ・第4回模擬試験と解説 | | |
| 15 | MOS試験対策 V | <ul style="list-style-type: none"> ・第5回模擬試験と解説 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| よくわかるマスターMOS Excel365&2019 | | 出席率 模擬テスト 期末テストまたは検定点数 | 20.0% 40.0% 40.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|--------------------------|--|---------|-------|
| ポートフォリオ | | グラフィックデザイン学科 1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 岡本 圭祐 |
| 授業の概要 | | | | |
| 就職活動の際に必須の作品集を制作。表紙・プロフィール・フォーマットの作成、授業課題・自主制作課題をファイリングする。 また、自主制作課題として作品集へ載せることを前提とし3点のコンペティションへ参加をする。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| ポートフォリオの完成とコンペティションへの参加 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | ディレクター、デザイナーとして21年の経験あり。 | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 自主制作、コンペに自主的に応募します。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~2 | ポートフォリオの必要性とその作り方 | スライドを使い、ポートフォリオ制作の進め方と必要性を説明。 | | |
| 3~4 | 自主制作について | ポートフォリオへの掲載を目的としたコンペティション参加について説明。 | | |
| 4~6 | コンペティション参加 | 各自ネット等で参加したいコンペティションを選択。 | | |
| 7~13 | ポートフォリオ制作・コンペティションデザイン制作 | 作品集へ入れる制作物を作成。 | | |
| 14~17 | 表紙作成 | 自己を表現するビジュアル作成。 情報を視覚的に伝える手法について理解する。 | | |
| 18~21 | 作品フォーマット作成 | 複数ページ物のデザイン制作について学ぶ。 | | |
| 22~26 | プロフィールページ作成 | 自己アピールとなるプロフィールを視覚的に表現する。 | | |
| 27~30 | プレゼン | 各自ポートフォリオのプレゼンテーションを行う。 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| B4バインダー | | 出席率 | 20.0% | |
| | | 課題・レポート | 80.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|--|--|---------|-------|
| DTP実習 I | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 長島 祐未 |
| 授業の概要 | | | | |
| DTPの仕組みについて学び、正しい情報の整理を行えることを目的とし展開する。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| クライアント・ターゲットユーザーの分析及び、適切なデータ制作と管理。営業やクライアントとの円滑な打ち合わせを行い、正しい情報の整理を行う。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | DTPオペレーター、デザイナーの経験有 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 授業初めに配布する入稿資料に沿い、データ作成&データ管理を行う。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | DTP概論 | オリエンテーション「デスクトップパブリッシングとは」 | | |
| 2~6 | 名刺デザイン制作 ①打ち合わせ ②文字組について | クラスメイトをクライアントとし、打ち合わせを行い相手独自の情報を引き出すことを目的とする。また美しい文字組を行う為グリッド拘束を意識したレイアウトについて学ぶ。 | | |
| 7~9 | ダイレクトメール ①郵便物の規格サイズ ②レイヤー管理 | ダイレクトメールの制作を通して、各郵便物の規格、ルールについて知識を身に着ける。またレイヤーで情報を管理し制作する習慣について理解する。 | | |
| 10~12 | クーポン券 ①クライアント・ターゲット分析 ②規格内容を意識した配色 | クライアント・ターゲットを分析することの大切さについて学ぶ。また企画内容を意識し、季節やクライアントやターゲットらしい配色方法について理解する。 | | |
| 13~15 | B4チラシ ①クライアント・ターゲット分析 ②関連した制作物の統一性 ③規則性 ④適切な入稿データ | 前回の課題であるクーポン券とB4チラシの統一感・関連性について学ぶ。また規則性による視線誘導について理解する。データ完成後の入稿データの重要性について理解する。 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| ①自作プリント | | 出席率 | 20.0% | 無し |
| | | 課題 | 80.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|--|---|---------|--|
| ブランディング I | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 桑田靖久 |
| 授業の概要 | | | | |
| ブランディングの手法による、ロゴデザイン、アプリケーション展開、モチーフコントロールによる、イメージ戦略立案を構築する手法を習得する。ターゲットを想定しイメージコントロールに必要な、カラー、サイン、モチーフのバランスを取るスキルを身につける。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1、VI計画の基本設計を習得する。2、コンセプト立案とプレゼンテーションを意識した資料の作成方法を習得する。ブランディング効果を理解し、各エレメントのシナジー効果を創造するスキルを身につける。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | yasuhisa kuwada design ofc. 代表 AD/Dとして、デザイン実務20年 | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 日常からデザイン対象への観察と、興味を持った表現を保存するライフワークを持っておく。授業内で制作する課題のセグメントに応じたドラフトの作成と検証を行い提出する。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~4 | フォントの取り扱い | フォントの種類を理解する。様々なフォント、文字の視覚的認識と可読認識の違いを理解する。 | | |
| 5~8 | VIの設計、ロゴマークデザイン | シンボルマークとロゴタイプのデザイン設計 テーマ：自分自身のブランド化するためのデザイン考察、シンボルマークデザイン | | |
| 9~12 | VIの設計2、アプリケーション展開ルール | シンボルマークとロゴタイプの、アプリケーションを展開する。 | | |
| 13~16 | VIの設計、プロットへの応用とモックアップ | 具体的な制作物への応用展開デザインの実施、モックアップ制作 | | |
| 17~20 | 商業施設のブランディング1 サイン看板のデザイン | 商業施設にテーマを設定し、イメージに合わせたフォントで看板を作成する | | |
| 21~24 | 商業施設のブランディング2 キャンペーン運営ツールへの展開 | テーマ設定した施設に、キャンペーンツール及び商業ポスターを製作する | | |
| 25~28 | リ・ブランディング、ロゴマーク制作 | 任意の既存ブランドマークを改良し、イメージを一新するリブランディング。 | | |
| 29~30 | リ・ブランディング、ロゴマークの展開 | ブランドを運営するツールの制作、DM、ショップカード、ノベルティデザイン | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| なし | | 出席率 | 20.0% | テーマ素材は各自リサーチし選定する。 データ提出形式: ai・pdfデータ |
| | | 課題 | 80.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|------------------------------------|--|--|---------|-------|
| モーショングラフィックス I | | グラフィックデザイン学科/1年□ | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 田辺真知子 |
| 授業の概要 | | | | |
| アニメーションやモーショングラフィックスについて学ぶ。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 動画ソフトAdobe Ae、Adobe Prについての基礎知識の習得 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | デザイナーとしてデザイン会社に勤務 | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 前回の復習を行う | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1-2 | 動画について | 目的と需要の説明 ネット上からストリーミング動画を探す | | |
| 3-4 | AeとPrの説明 Aeについて(アニメーション①) | iMovie(予告編)の説明 Aeを使用し実際にアニメーション制作する | | |
| 5-6 | Aeについて(アニメーション②) | Aeを使用し実際にアニメーション制作する | | |
| 7-8 | Aeについて(アニメーション③) | Aeを使用し実際にアニメーション制作する | | |
| 9-10 | Aeについて(アニメーション④) | Aeを使用し実際にアニメーション制作する | | |
| 11-12 | Aeについて(ロゴアニメーション)プレゼン Prについて(動画編集①) | ロゴアニメーションの課題提出(プレゼン) Prを使用し動画編集をする | | |
| 13-14 | Prについて(動画編集②) | Prを使用し動画編集をする | | |
| 15-16 | Prについて(動画編集③) | Prを使用し動画編集をする | | |
| 17-18 | Aeについて(ロゴアニメーション) | 自分のオリジナルロゴをデザインし、それにアニメーションをつける | | |
| 19-20 | Aeについて(ロゴアニメーション) | 自分のオリジナルロゴをデザインし、それにアニメーションをつける | | |
| 21-22 | Aeについて(ロゴアニメーション) | 自分のオリジナルロゴをデザインし、それにアニメーションをつける | | |
| 23-24 | PrとAeの連携 自己紹介Movieの作成 | ダイナミックリンクを使用してPrとAeを連携させた動画を作成する。 PrとAeを使用して自己紹介ムービーの作成する | | |
| 25-26 | 自己紹介Movieの作成 | PrとAeを使用して自己紹介ムービーの作成する | | |
| 27-28 | 自己紹介Movieの作成 | PrとAeを使用して自己紹介ムービーの作成する | | |
| 29-30 | 自己紹介Movieの作成(プレゼン) | PrとAeを使用して自己紹介ムービーの作成する 動画上映を行いプレゼンテーションする。 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| | | 出席率 | 20.0% | |
| | | 課題・レポート | 80.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|---|---|---------|-------|
| ベーシックデザインⅡ | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 鶏内 真紀 |
| 授業の概要 | | | | |
| 遠近法について理解を深め、イラスト表現における描画基礎を学ぶ。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 商業イラストの役割、制作過程を理解できる。 2. 透視図法が理解でき、パース画が作成できる。 3. 手描きの線画をデジタルに変換し、彩色することができる。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | デッサン塾での指導(2001~2004年) イラスト制作販売の経験(2003~2020年) | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| ドローイングで学んだことを復習しておくこと。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | イラストレーションの種類と役割 | ・さまざまな技法・スタイルで描かれたイラストの紹介と役割の説明 ・平面に立体を描く技法の習得 技法①重ね合わせ 技法②サイズとスペースの変化 技法③空気遠近法 | | |
| 2~ 4 | 平面に奥行きを表現する | 技法④線遠近法(線の収束) ・1点透視図法 ・2点透視図法 | | |
| 5~ 6 | パースのかかった図形の分割と増殖 | ・2等分割・3等分割・4等分割・6等分割の作画 ・パースのついた6分割の作画 ・一方向の増殖 ・二方向の増殖 | | |
| 7 | 目測を鍛える(パースラインを規定する) | 立方体を15個作画する(2点透視図) 5個までは定規使用 6個めからはフリーハンドで作画 | | |
| 8~ 9 | 文字の立体化 | 文字に厚みを加え立体化する ・投影図(アイソメトリック図) ・2点透視図 | | |
| 10~ 11 | 人物の描き分け | 1. 年齢の描き分け 2. 性別の描き分け 3. プロポジション 4. 正面 斜め45° 横 後ろ | | |
| 12~ 15 | イラスト作品制作 | 指定されたテーマでイラストレーションを描く 手描きの線画をPCへ取り込む方法について IllustratorやPhotoshopでの彩色技術を身につける | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| なし | | 出席率 | 20.0% | なし |
| | | 課題 | 80.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|---|---|--------------------|-------|
| 修了制作 | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位(60時間) | 必須 | 鶏内 真紀 |
| 授業の概要 | | | | |
| 1年次の集大成として、これまで取り組んできた授業課題の表現技法を応用し、テーマに基づいたビジュアライズを行う。 原則とし、アナログでの表現に限る。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1. 長期作業を行う上で必要な制作手順の把握とそれに伴うスケジュール管理が出来る。 2. 与えられた課題を理解し、制約のある中で発案出来る。 3. 丁寧な作業を行い、展示に値する画面に仕上げる。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | デッサン塾での指導(2001~2004年) イラスト制作販売の経験(2003~2020年) | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| チラシや広告を参考資料としてストックしておく。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~ 2 | イントロダクション | 修了制作の実施内容について説明を行う。 テーマの選出 | | |
| 6 | スケッチ | テーマをどのように解釈するのか、コンセプトに基づいたアイデアスケッチの制作 | | |
| 7~ 10 | コンセプトチェック | サムネイル(ビジュアルとタイポグラフィの計画)の作成を行う。 | | |
| 11~ 12 | 水張り | 木製パネルへの水張り作業 講師によるデモンストレーション後に作業を行う | | |
| 13~ 18 | 配色計画 | ※コンセプトチェックでOKが出た学生から順次取り組む デジタルツールを使用して配色計画を行う | | |
| 19~ 20 | ブラッシュアップ | 中間発表後の修正、ブラッシュアップ | | |
| 21~ 29 | 本制作 | 水張りをしたパネルに描く 完成後、提出。 | | |
| 30 | 作品発表 | プレゼンテーションを実施し、評価を行う。 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| なし | | 出席率 課題 | 20.0% 80.0% | なし |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|--|---|---------|---|
| グラフィックデザイン実習 I | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数 (時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 30回 | 2単位 (60時間) | 必須 | 桑田靖久 |
| 授業の概要 | | | | |
| 視覚伝達デザインの基本色分解と印刷への理解を深める、主にイラストレーターのスキルと、平面のビジュアルデザインに必要な画面構成力を習得する。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 1、色彩と知覚への表現における平面構成力習得し、ビジュアルをコントロールできる能力を身につける。2、色分解と印刷手法への理解を深める。2、文字のデザイン手法を習得する。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | yasuhisa kuwada design ofc. 代表 AD/Dとして、デザイン実務20年 | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 日常からデザイン対象への観察と、興味を持った表現を保存するライフワークを開始する(ノート持参)。授業内で制作する課題のセグメントに応じたドラフトの作成を行い提出する。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1~4 | グラフィックデザインのモノクロ表現 | モノクロ表現とデザインの精度、スタンプ図案の制作 | | |
| 5~8 | グラフィックデザインの告知物 1 2色+モノクロのグラフィックデザイン ex) イベント告知フライヤーとDM | モノクロ+2色での表現: コントラストとレイアウトで変化をつける、イベントフライヤーの制作、サイズ2種フライヤーとDM 架空のイベントを設定し、記載情報を確認する→原稿作成 | | |
| 9~12 | グラフィックデザインの告知物 2 2色+モノクロのグラフィックデザイン ex) イベント告知 | 設定したイベントのテーマ、特性、ターゲットを想定した告知物を制作する。 | | |
| 13~16 | ポスターデザイン1: フォトコラージュ | 写真素材を利用、加工する、コラージュポスターの制作 | | |
| 17~20 | ポスターデザイン2: フォトコラージュ | 写真素材のカット、合成、画像解像度などフォトショップの編集機能を習得する | | |
| 21~24 | ポスターデザイン1: テーマを設定したポスターアート、自己PRポスター | テーマ設定をもとに、自分らしさをB2ポスターで表現、制作する。 コンセプトから設計→ラフおこし→手法の選択→カンプの制作 | | |
| 25~30 | ポスターデザイン2: テーマを設定したポスターアート、自己PRポスター | ポスター印刷と検証、ブラッシュアップの考察 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| なし | | 出席率 | 20.0% | テーマ素材は各自リサーチし選定する。 データ提出形式: ai・pdfデータ |
| | | 課題 | 80.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|--|--|---------|------|
| Webデザイン基礎 I | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/後期 | 実習 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数 (時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 1単位 (30時間) | 必須 | 上野リサ |
| 授業の概要 | | | | |
| WEBマーケティングを基準とし、クラウド概念、WEBにおける基本知識 (HTML含む) を理解する。実習を通してWEBデザイン基礎力を定着させ、さらなるデザイン力アップを目指す。 | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| 自身で考案した企画・コンセプト・ワイヤーフレームを土台にLPデザインを制作しサーバーへの公開を目指す。さらにポートフォリオ制作を完成し飛躍を目指す。 HTML基本知識を身につけコード理解を目指す。 WEBマーケティングの基礎を身につけ分析能力を高める。 | | | | |
| 実務経験有無 | 実務経験内容 | | | |
| 有 | 実務経験：29年 (グラフィックデザイン、イラストレーター、WEBデザイン、M&A、EC、WEBマーケティング実務あり) <u>詳細はURL先でご確認くださいませ。</u> https://docs.google.com/document/d/1gaJsQi-uKngLc21eiaVzJu16Qdm01eGnYv0pjrvt64/edit?usp=sharing | | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| フォトショップ基本操作 (レイヤー概念) タイピング能力 (標準レベル) 英語能力 (中学レベル) | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | はじめに 各種アカウント取得 ヒヤリング | 各SNSアカウント取得 各自ヒヤリング | | |
| 2~3 | 各種ツール使用方法説明口 | 各種ツールにおける使用目的と使用方法について クラウドの基本講座 | | |
| 4~5 | WEBデザイン基本講座 | DTPデザインとWEBデザインの違いについて バナーデザインとは バナーデザイン使用目的と制作方法 | | |
| 6 | バナーデザイン基礎① | 課題バナーデザインの模写・再現 | | |
| 7 | バナーデザイン基礎② | 課題バナーデザインの模写・再現 及びリデザイン3タイプ | | |
| 8 | バナーデザイン基礎③ | 自身が選んだバナーデザインの模写・再現 及びリデザイン3タイプ | | |
| 9~10 | マインドマップについて SWOT分析・実践・応用 | マインドマップとは マインドマップを使って実際にデザイン制作する方法と説明 自作バナー制作に向けたマインドマップ制作 SWOT分析・講義・応用 | | |
| 11 | LPデザインとは | LPデザインとは LPデザイン使用目的と制作方法 | | |
| 12 | LPデザイン基礎① | 課題LPデザイン制作 (課題作品) 評価と手直し | | |
| 13 | LPデザイン基礎② | 課題LPデザイン制作 (課題作品) 評価と手直し | | |
| 14~15 | LPデザイン基礎③ | 課題LPデザイン制作 (課題作品) 評価と手直し | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| 入門Webデザイン (検定用) | | 出席率 | 20.0% | |
| | | 課題 | 80.0% | |

| 科目名 | | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|-----------|--|---------|-------|
| 社会人基礎 I | | グラフィックデザイン学科/1年 | 2024/後期 | 講義 |
| 授業時間 | 回数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 担当教員 |
| 90分 | 15回 | 2単位(30時間) | 必須 | 長島 祐未 |
| 授業の概要 | | | | |
| <p>1年次2月から始まる就職活動に向けて、仕事に対する心構えや、社会人としてのルールやマナーを知っておく必要があります。この授業では、企業が求める人材像に近づくべく、知識や技術ではなく、内面(心)の部分が高めることを目的としている。</p> <p>また、採用試験の面接を突破するために、自己分析を行い、履歴書の書き方から面接対策など、幅広く指導を行う。さらに、就職活動までに企業研究を十分に行い、目指す職種と業種の理解を深める。</p> | | | | |
| 授業終了時の到達目標 | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人となるための心の準備ができています。 2. 履歴書の完成 3. 志望動機・自己PRの完成と、スピーチが出来る。 4. 面接での立ち居振る舞い・質疑応答が出来る。 | | | | |
| 実務経験有無 | | 実務経験内容 | | |
| 有 | | DTPオペレーター、デザイナーの経験有口 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | | |
| 時間外に必要な学修 | | | | |
| 自己分析を行うとともに、各自目指す業界の企業分析を行う。 | | | | |
| 回 | テーマ | 内容 | | |
| 1 | 就職活動へむけて | 半年後に始まる就職活動に向けての「心構え」「やるべきこと」を理解する。 | | |
| 2 | 企業が求める人材像 | 私たちが挑む企業は、どのような人材を必要としているのか十分に理解し、現在の自分に足りないことを見出す。 | | |
| 3 | 過去の事例紹介 | 先輩たちの苦労話や経験を伝え、自分と照らし合わせることで、就職活動に対してより理解を深める。 | | |
| 4 | 企業研究① | 企業を知り、求人内容を知る。「就職」を現実的に捉え、意欲の向上を図る。 | | |
| 5 | 企業研究② | インターネットを利用し、気になる企業を数多くピックアップする。 | | |
| 6 | 履歴書作成① | 履歴書がどれだけ重要なのか理解し、書き方を学ぶ。志望動機・自己PR以外の部分の鉛筆による下書き。 | | |
| 7 | 履歴書作成② | 志望動機・自己PR以外の部分の鉛筆による下書き。 | | |
| 8 | 自己PR作成① | 効果的な自己PR文の書き方を学び、自分自身のPRできる内容をピックアップする。 | | |
| 9 | 自己PR作成② | ピックアップした内容(ネタ)を文章化し、履歴書へ下書きとして記入 | | |
| 10 | 履歴書清書 | 下書した履歴書を清書する。この履歴書は「どれだけキレイに記入するべきか」を把握するためのもので、本番の採用試験で使うものではない。 | | |
| 11 | 履歴書清書 | 下書した履歴書を清書する。この履歴書は「どれだけキレイに記入するべきか」を把握するためのもので、本番の採用試験で使うものではない。 | | |

| 回 | テ ー マ | 内 容 | | |
|---------|---------|---|-------|-----|
| 12 | 面接対策の準備 | 面接試験の重要性が理解できるよう、面接官の視点でポイントを伝える。 | | |
| 13 | 面接対策① | 入室から退室までの動作・表情・発生・お辞儀の練習をする。 | | |
| 14 | 面接対策② | 入室から退室までの動作・表情・発生・お辞儀の練習をする。 | | |
| 15 | 面接対策③ | 実際に面接形式にて、模擬面接を行い、入室から退室までがスムーズに出来るか確認する。 | | |
| 教科書・教材 | | 評価基準 | 評価率 | その他 |
| ①自作プリント | | 出席率 | 20.0% | 無し |
| | | 課題 | 80.0% | |